

阿賀野川 えとこだより

aganogawa E-toko dayori



ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。

「阿賀野川下流の一日市地区を上空から望む」(H23.2.3 新潟日報朝刊掲載写真)

もくじ

- 特集1 ふるさとの環境づくり企業が取り組む CSR情報発信フォーラムのご案内 2
- 特集2 地域再発見講座(第15・16回)レポート 4
- 「旧昭和電工(株)鹿瀬工場ものがたり」
- 「写真で旅する阿賀野川・近代ものがたり」
- 特集3 阿賀野川えとこだ! 流域通信 6
- 「続々と発掘中! 昔の写真をお貸しください!」
- ・草倉銅山及びFM事業パネル展も開催中!
- インフォメーション 8

阿賀野川流域の未来を切り開く「もやい直し」を

「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(FM事業)は当初、阿賀野川流域各地の歴史・文化に着目し、その光と影を読み解く中から新潟独自の「もやい直し」を模索しました。加えて、ここ数年は流域内外の企業との関係づくりを積極的に進め、地域の中で生きる企業の社会的責任(CSR)を支援する新たな試みに挑戦しています。高度成長を実現した昭和30～40年代の日本、当時の企業活動には環境への配慮が乏しく、四大公害に代表される激甚型の公害が各地で続出し、また、それから50年以上経過した現在、環境や人権に配慮したり地域貢献などを目指す様々なCSR活動に多くの企業が熱心に取り組むなど、当時と比べると隔世の感があります。

一方、右肩上がりの経済成長を遂げてきた日本社会も現在には課題が山積み、特に地方は人口減少が深刻で、閉塞感を打破すべく地方創生が盛んです。地域の持続可能性を担保する「稼ぐ力」も注目される昨今、地域の中における企業の重要性はますます高まりつつあり、今後のFM事業でも両者を橋渡しする役割を担っていきます。

※CSR=Corporate Social Responsibility の略で「企業の社会的責任」の意味

新潟水俣病の公式確認から50年
地域と企業が共存して生き抜く時代へ

この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

流域情報

新潟水俣病トーク&ライブ開催レポート



当日は大勢の方々から参加いただき、会場は大盛況でした。

新潟水俣病公式確認 50 年事業の一環として、新潟県及び新潟市が被害者団体と協働して、「新潟水俣病トーク&ライブ～恵み豊かな阿賀の流れに～」を1月30日に県民会館にて開催しました。当日は加藤登紀子さんのトーク&ライブを始め、多彩な催しが行われましたので、その一部を写真とともにレポートします!



新潟医療福祉大学ダンス部による創作ダンス「記憶に映る未来-川に託す想い-」(写真左2枚) / 「たっつあん」こと横山作栄(シンガーソングライター)と歌手手たちによる歌と詩の朗読による構成劇「恵み豊かな阿賀の流れに」(写真右2枚)



松浜太鼓保存会からもご出演いただき、阿賀野川河口の町・松浜の四季を表現した「正調松浜太鼓」を演奏していただきました。演奏直後はあまの迫力に会場がどよめいたほど(写真左3枚) / 阿賀野川情景の昔懐かしい写真パネルも併設(写真右1枚)



パネルトーク「恵み豊かな阿賀野川の思い出、未来に伝えたい思い～阿賀野川流域の暮らしを知り、新潟水俣病について知る～」(コーディネーター:伊勢みずほ、パネリスト:新潟水俣病患者、大学生) 各自の思いが伝わる素晴らしいパネルトークでした(写真4枚)

「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第18号はいかがでしたでしょうか?

これまで官民問わず、様々な団体による協働のもと展開してきた新潟水俣病公式確認 50 年事業ですが、今年の3月後半に開催される石碑除幕式をもって終了となります。

FM事業では、今年度後半から企業との関係づくりをさらに進めてきましたが、3月にCSRの情報発信をテーマとしたフォーラムを開催することとなりました。地域の持続可能性が試される昨今、企業が地域の中に立地する重要性がますます高まる中で、FM事業が地域と企業をつなぐ役割を今後果たしていければと考えています。

次号は6月中に発行予定です。お楽しみに!

阿賀野川えとこだより 第18号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2016年2月24日
企画編集:一般社団法人あがのかわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川えとこだ! 流域通信

<http://www.aganogawa.info/>

アクセス増加中!





▲昭和電工(株)等と協働したCSR研修の様子

工場排水に含まれた有機水銀が阿賀野川に流れ出て被害が発生した新潟水俣病が、昭和40年に公式に確認されてから50年が経過しました。

現在、新潟県が官民協働で展開する、阿賀野川流域の地域再生を目指した取組「阿賀野川えとこプロジェクト」(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業)では、昭和電工(株)等と協働してCSR研修プログラムを提供しています(※当日はこの昭和電工(株)との取組事例も発表いたします)。

現代では当時とは異なり、多くの企業が環境や人権に配慮したり、地域貢献などを目指す様々なCSR活動に熱心に取り組んでいます。今後、公害を二度と繰り返さない社会の実現を目指すためにも、こうしたCSRに取り組む企業を「ふるさとの環境づくり企業」と位置づけ、その「キラリと光る」取組事例の情報発信を推進します。



(株)伊藤園 常務執行役員・CSR推進部長 笹谷秀光氏

東京大学法学部卒業。1977年農林省(現農林水産)入省。人事院研修で1981-1983年フランス留学、外務省出向(1987-1990年在米国日本大使館一等書記官)。農林水産省にて、中山間地域活性化推進室長、市場課長、牛乳乳製品課長、国際経済課長、農林水産技術会議総務課長等を歴任。2003年環境省大臣官房政策評価広報課長、2005年環境省大臣官房審議官、2006年農林水産省大臣官房審議官、2007年関東森林管理局局長を経て、2008年退官。同年伊藤園入社、知的財産部長、経営企画部長等を経て2010-2014年取締役。2014年7月25日より現職。CSR・環境を担当。現在、多様なテーマの、講演・シンポジウムに登壇多数。著書「CSR新時代の競争戦略-ISO26000活用術」、「ビジネス思考の日本創生・地方創生 協創力が稼ぐ時代」



クラレテクノ(株)

新潟営業所所長
斎藤 茂雄 氏

麒麟山酒造(株)

代表取締役社長
齋藤 俊太郎 氏



開催概要

対象:企業・NPO等、県民／参加費無料

- 日時:3月29日(火) 13時半～16時半(受付13時～)
- 場所:新潟ユニゾンプラザ5F大研修室(新潟市中央区上所2-2-2)
- 申込方法:必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにて下記申込先までお申し込みください。
- お問合せ・お申込み先:一般社団法人あがのがわ環境学舎
TEL&FAX:0250-68-5424 / ✉ aganogawa@niigata.email.ne.jp

企業・団体用 参加申込書

※FAXの場合、送付用紙は必要なくこのまま送信願います。
E-mailの場合、件名を「3/29CSRフォーラム申込」としてお送りください。

企業名			住 所	〒	
参 加 者	ふりがな 氏 名		所 役	属 職	
	ふりがな 氏 名		所 役	属 職	
	ふりがな 氏 名		所 役	属 職	
電話番号	FAX		E-mail		

個人用 参加申込書

※FAXの場合、送付用紙は必要なくこのまま送信願います。E-mailの場合、件名を「3/29CSRフォーラム申込」としてお送りください。
なお、いただいた個人情報は、流域再生事業の実施を目的とした用途以外に使用することはありません。

ふりがな お名前	住 所	〒	電話番号
-------------	-----	---	------

ふるさとの環境づくり企業を支援

特集 1

ふるさとの環境づくり 企業が取り組むCSR 情報発信フォーラム

第1回

CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) とは、企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダー(※)からの信頼を得るための企業のあり方を指します。【経済産業省ホームページより】 (※)利害関係者:株主・投資家、消費者、取引先、従業員、地域社会など企業を取り巻く社会全体)

Corporate Social Responsibility

2016年3月29日(火) 13時半～16時半(受付13時～)

会場

新潟ユニゾンプラザ5F大研修室
(新潟市中央区上所2-2-2)

対 象

企業・NPO団体 & 県民

参加費

無料

第2部 発表

県内企業のキラリと光るCSR事例紹介
新潟らしいCSRを探る

第1部 講演

企業と社会との共有価値の創造
-「協創力」が稼ぐ時代-



1.異業種の介護事業

クラレテクノ(株)新潟営業所所長・斎藤茂雄氏



2.地元の米・森づくり

麒麟山酒造(株)代表取締役社長・齋藤俊太郎氏

3.鹿瀬工場の排水見学

一般社団法人あがのがわ環境学舎職員・山崎陽

4.公害資料館リニューアル

環境と人間のふれあい館副参事・高野栄芳



(株)伊藤園

常務執行役員
CSR推進部長

ささや ひでみつ
笹谷 秀光 氏

1977年農林省(現農林水産)入省、2008年退官。同年伊藤園入社、2014年7月25日より現職。CSR・環境を担当。

話題提供

- 国際規格ISO26000にいち早く着目し伊藤園に取り入れたCSR施策の再編手法とは?
- 「協創力が稼ぐ時代」の新たな経営戦略として注目される「発信型三方よし」とは?

主催:新潟県(担当:新潟県立環境と人間のふれあい館) お問合せ:0250-68-5424 (一社)あがのがわ環境学舎

共催:新潟 CSR 研究会・一般社団法人あがのがわ環境学舎 後援:新潟商工会議所・新潟県経営者協会・新潟県中小企業家同友会